

令和7年度第1回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他 市立病院の外来予約について
日時	令和7年7月4日(金) 午後7時00分 開会 午後7時55分 閉会
場所	茅ヶ崎市立病院 別棟会議室
出欠席者氏名	(出席) 高山慶一郎委員長、下里隆史副委員長、長岡健介委員、山口哲也委員、大木教久委員、横山大樹委員、大久保敦子委員、大久保一郎委員 (欠席) 勝山貴美子委員、北畑晶久委員 事務局(中沢病院事業管理者、藤浪病院長、栗山副院長、岩澤副院長兼事務局長、山岡副院長兼看護部長、益原診療部長兼患者支援センター所長、中戸川診療部長、高瀬医事課長、平山患者支援センター担当長、岡野がん相談専従看護師、高橋医事課主査)
資料	・地域医療支援委員会次第 1 患者支援センターの業務実績について(令和6年度の実績) ・紹介率・逆紹介率 (資料1-1) ・診療科別紹介率・逆紹介率 (資料1-2) ・茅ヶ崎市立病院 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 (資料1-3) ・登録医救急診察専用回線による紹介患者集計表 (資料1-4) ・予約検査実績 (資料1-5) ・相談日誌(延件数) (資料1-6) ・退院支援実績 (資料1-7) ・小児周産期実績 (資料1-8) ・地域医療機関と連携した研修会等実績 (資料1-9) 2 がん相談支援センターの業務実績について(令和6年度の実績) ・がん相談支援センター実績報告 (資料2) 3 救急搬送状況について(令和6年度の実績) ・病院別救急車搬送件数の状況(茅ヶ崎市消防) (資料3-1) 科別救急車搬送件数の状況 ・茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況(行政地区別) (資料3-2) 4 その他 市立病院の外来予約について ・患者支援センターの病診連携予約(資料4-1)

	・病診連携申込書兼予約票 電話予約専用（資料４－２） ・病診連携申込書 FAX予約専用（資料４－３）
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	０名

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

定刻となりましたので、令和７年度第１回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開会いたします。本日は、皆様お忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。

本日の司会進行を務めます、患者支援センターの益原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員１０名に対し８名の委員に出席いただいております、茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会規則第５条第２項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

また、第１回目の委員会開催に先立ち、今年度は委員２名の変更がありましたのでご紹介いたします。

茅ヶ崎市保健所所長の大久保一郎様、茅ヶ崎市消防本部警防救命課救命担当課長の北畑晶久様が今年度より委員に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日、北畑委員におかれましては別の会議へ参加される関係で欠席となっておりますことを報告申し上げます。

それでは、開会にあたり中沢病院事業管理者よりご挨拶申し上げます。

●事務局（中沢病院事業管理者）

皆さん、こんばんは。茅ヶ崎市病院事業管理者の中沢でございます。

本日は、大変お忙しいところ今年度第１回目の地域医療支援委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

日頃より、皆様方には市立病院の運営にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げる次第でございます。

先ほどご紹介がありましたように、今回は第１回目の委員会ということで、委員の先生方の交代もございまして、先ほどご紹介いただきましたが、大久保先生と北畑救命担当課長に就任していただきました。快くお引き受けいただき、ありがとうございました。

今後とも、それぞれの立場で積極的なご発言をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、早いもので今年度も３ヶ月、第１四半期を経過したところでございますが、例年になく既に暑い日が続いておりますが、委員の皆様方におかれましては、体調に変化はございませんでしょうか。

この４月は、例年になく市立病院も入院、外来いずれも患者さんが増加しており、ご紹介等でお手を煩わせたのではないかと思います。

本当に申し訳ございませんでした。その後は徐々に落ち着きを取り戻しているところでございます。

このところ話題になっている藤沢市の麻疹、はしかの話でございますが、藤沢市としては今年に入

って10件に上の報告をしているところでございます。

市立病院でも、急遽体制を整えて診療にあたっているところでございますが、今のところ患者さんの発見は確認されていないというところでございます。

本日は、令和6年度の患者支援センターとがん相談支援センターの実績とともに、救急搬送件数の推移など、地域医療支援病院としての業務執行状況についてご報告し、ご議論いただくこととしております。

また、合わせまして、現在、当院では外来患者さんの診療の予約方法について検討しているところでございますが、現場の先生方の生の意見をぜひ頂戴したく、議題その他として挙げさせていただきしました。

どうぞ忌憚のないご意見を賜ればと存じます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

ありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。これより先の議事進行につきましては高山委員長にお願いいたします。

高山委員長、よろしくお願いいたします。

○高山委員

茅ヶ崎医師会の高山です。円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題1の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

●事務局（平山担当長）

それでは、令和6年度の患者支援センターの業務実績について説明させていただきます。

患者支援センター担当長の平山です。よろしくお願いいたします。

資料1-1をご覧ください。こちらは令和6年度の紹介率、逆紹介率の表です。紹介率の平均は72.9%、逆紹介率の平均は108.6%であり、前年度と比較すると紹介率は3.0ポイント増加、逆紹介率は9.7ポイント増加しています。

下段にあります、地域医療支援病院の承認要件2の紹介率65%以上、逆紹介率40%以上を満たしております。

資料1-2をご覧ください。令和6年度の診療科別紹介率、逆紹介率の表です。

右にある累計の欄をご覧ください。紹介率は、放射線診断科100%、眼科95.6%、リウマチ膠原病内科91.6%、循環器内科90.5%の順になっており、逆紹介率は代謝内分泌内科、呼吸器外科、腎臓内科、循環器内科の順になっています。

資料1-3をご覧ください。令和6年度の紹介元、逆紹介先の医療機関一覧です。紹介元医療機関名と紹介患者数、そのうち予約検査数、前年度実績、前年度比を表しています。

紹介元医療機関は、やまもと内科クリニック、大木医院、藤川整形外科の順に多くなっています。逆紹介先医療機関は、やまもと内科クリニック、大木医院、藤川整形外科、水沼医院の順に多くな

っています。

前年度と比較して、紹介患者数が最も増加したのは、10 番のキャップスクリニックの 189 人増で、続いて 30 番のサークルクリニックの 116 人増、29 番のはしもと脳神経外科クリニックの 64 人増、12 番の湘南いしぐろクリニックの 61 人増になっています。

資料 1－4 をご覧ください。令和 6 年度の登録医救急診察専用回線、循環器ホットラインの紹介についてです。

対応件数は 641 件で、前年度より 99 件増加しました。小児科への紹介が全体の 43%を占めています。紹介患者さんのうち、入院につながったケースは 277 件で、前年度と比較すると 46 件増加しています。

裏面をご覧ください。

入院割合は全体で 43%、小児科への入院割合は 55%となりました。

登録医救急診察専用回線の入電時間は、午前 10 時から 11 時台が最も多く、午後は 15 時から 17 時台にかけて多くなっています。

資料 1－5 をご覧ください。令和 6 年度の予約検査の件数表です。

C T、MR I については検査需要が高く推移し、C Tは 868 件で前年度比 109.9%、MR Iは 952 件で前年度比 99.6%となっています。

エコー検査は、腹部エコーが 311 件で最も多く、続いて心エコーが 104 件、甲状腺エコーは 56 件で前年度比 105.7%となっています。また、脳波検査は 59 件で前年度比 105.4%となっております。資料 1－6 をご覧ください。令和 6 年度の月別相談延べ件数表です。相談対応は、看護師と社会福祉士が行っています。

新規が 2,430 件、継続 7,252 件の合計 9,682 件の相談対応延べ件数で、前年度比 94.2%となっています。

令和 6 年 1 月に導入した退院支援システム M i x J a mクラウドを活用した転院調整は 643 件であり、院内外の連絡調整件数が顕著に減少しました。

相談内容の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く 3,360 件、次に転院に向けての退院相談が 3,088 件、続いて社会福祉制度の相談が 1,484 件となっています。

対応方法は、電話での相談対応が 4,136 件と最も多いものの、前年度と比較すると 1,075 件減少しています。退院支援システム活用による影響と考えられ、その分、対面での相談件数は 3,501 件と前年度比 102.0%増となっています。院外関係者とのカンファレンスは 128 件で、前年度より 12 件増となっています。

資料 1－7 をご覧ください。令和 6 年度の入退院支援の実績表です。総退院患者数は 10,855 名、そのうち退院支援スクリーニングで該当ありの患者が 7,376 名、入退院支援加算 1 算定患者数が 6,795 名、入院時支援加算対象者が 3,136 名、その他に退院前後訪問、介護支援連携指導、退院時共同指導 2 の実施数、多機関共同指導数のデータになります。いずれも前年度を上回る退院支援状況となっています。

資料 1－8 をご覧ください。令和 6 年度の小児周産期医療に関するデータになります。

分娩件数が 393 件、母体搬送数は 37 件、新生児搬送件数は 56 件、母体搬送は前年度より 9 件減少しております。訪問型産後ケアは 13 件で前年度より 2 件減少しております。令和 6 年度から開始した日帰り産後ケアは 15 件の利用がありました。また、メディカルショートステイは 14 件対応しています。

資料１－９をご覧ください。令和６年度に地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績になります。合計２５回開催し、５９２名が参加されました。研修会や症例検討会、カンファレンス等を通し、顔の見える関係性と連携強化を図れるように継続的に進めていきます。報告は以上になります。

○高山委員長

説明が終わりました。議題１について、委員の皆さんからのご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大久保（一）委員

はい、すみません。保健所の大久保ですが、よろしいでしょうか。

○高山委員長

はい、大久保先生お願いします。

○大久保（一）委員

資料１－３のところで、紹介患者さんが増えたという報告があったかと思うのですが、非常に良いことだと思いますが、何か特別なご努力を病院側もしくは医師会側で何かされたのでしょうか。

●事務局（平山担当長）

ご質問ありがとうございます。患者支援センターでは、登録医の先生のところへ診療所訪問という形でお伺いし、当院の診療状況の説明をさせていただいたり、ご要望をお聞きするような機会を作っています。

○大久保（一）委員

どうもありがとうございました。

○高山委員長

他に何かご質問はございませんでしょうか。

○高山委員長

特に質問等ないので、議題１については終了したいと思いますがいかがでしょうか。

ご異議がないのでこれで終了とさせていただきたいと思います。続いて議題２のがん相談支援センターの事業実績について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい。がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願いいたします。

それでは、がん相談支援センター令和６年度１年間の業務実績についてご説明いたします。

資料２をご覧ください。１の月別がん相談支援件数は、１年で延べ２,０６７件と前年度より８５５件増加

しました。同日に来られた方の相談に対して、例えば外来前、外来中、外来後などと対応ごとにカウントしていますので、関わっていく回数に伴い多くなっています。また、長く治療や経過を見ていく中で不安が強く、話を聞いてほしいなどで受診の際に来られる方もいます。

介入ケースによっては、地域包括支援センターや訪問看護などと情報を共有したり、緩和ケアのナーースなどにつなぐケースもあります。

患者さん、家族に5回以上関わるケースは106件。平均で4回ですが、30回以上の方もおり、1番多くて38回の方もいました。相談対応が重なる場合には、患者支援センターのスタッフなどに対応を依頼することもあります。また、相談患者実人数に関しては449件で前年度より100件増加しました。

2の受診状況別がん相談件数に関しては自施設通院中が1,675件、自施設入院中が305件、他施設が54件、匿名その他は33件でした。

3の受診状況別相談方法は、対面相談が1,567件、電話相談が500件でした。他施設からの相談に対しては、電話相談が31件と多い状況でした。

裏面をご覧ください。

4の相談内容の内訳については、症状、副作用、後遺症などの相談が1,283件と1番多くなっています。

その中でアピアランスケアに関して37件ありました。外来で抗がん剤を行う患者さんに対して、薬剤師が説明を行っています。その際に脱毛などの副作用対策を知りたい患者さんをがん相談につないでくれるケースもありました。

また、実際に脱毛が開始した時に手入れ方法などを再度確認される方もおり、フォローを行うようにしています。

その他に不安、精神的苦痛が1,221件、他の患者さんはどうしているのかと不安があるケースに関しては、がん患者サロンのご案内なども行っています。このケースに関しては、乳がん限定の患者会に参加を希望され、実際に行っていたのですが、患者さんからは行ってよかった。みんな悩んでいるんだと納得された方もいました。

グリーフケアに関しては、患者さんがお亡くなりになったあと、ご家族が挨拶に来られるケースがあり、その際にご家族の思いをお聞きしています。

なお、がんの治療について802件、在宅医療443件、ホスピス、緩和ケア192件となっていました。

1人で複数の相談内容があるため、相談件数と一致しません。

5のがんの状況については、初発が1,465件、再発、転移が558件でした。

6の治療状況においては治療前が465件、治療中823件、治療後91件、緩和ケアのみ367件でした。他施設などからの相談に関しても、治療中の相談割合が多くなっていました。

全ての項目の中で不明その他に関してですが、がん相談支援センターでは匿名の方などの相談もお受けしています。そのため、相談の際に詳細内容を話したくないという方もおられます。わかる範囲での相談と伝えし、情報提供を行っています。

7のがん相談支援センターへの専門家派遣依頼件数についてです。臨床心理士は2件、社会保険労務士1件、キャリアコンサルタント1件でした。こちらに関しては、がん相談で相談を受けて神奈川県がん疾病対策課に連絡し、派遣を要請します。調整をするまでに1、2週間程度期間を要しています。あらかじめ患者さんには少し時間がかかることをお伝えし、その上で調整を図っています。社会保険労務士に関しては、急いでいる場合もありあるので、その方の状況によって神奈川県産業

保健総合支援センターの窓口をご案内しています。

今後も引き続きが相談支援センターの支援、対応してもらえるように周知活動をしていきたいと考えます。

説明は以上になります。

○高山委員長

はい、説明が終わりました。議題2について、委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大久保（一）委員

保健所の大久保ですが、よろしいでしょうか。

○高山委員長

はい。大久保先生。

○大久保（一）委員

すいません、相談の実人員が100人ほど増えておりますが、何か部位別で肺がんが多くなったとか、胃がんが多くなった、大腸がんが多くなったなど、がんの部位別の特徴は何かあるのでしょうか。

○高山委員長

はい、事務局お願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい、ご質問ありがとうございます。実際にどれくらい多くなっているとか、そういうところはしっかり出せていないのですが、相談といいますか関わる診療科などは消化器内科の方が多いという印象で、すい臓がんの方ですとか、胃がんの方などが多いような状況になっています。

○大久保（一）委員

はい、すみません。どうもありがとうございました。

もう1点、1番最後の専門家の派遣依頼ケースのところで、臨床心理士とありますが、まだ認定心理士はいらっしゃらないのか、もしくは臨床心理士と書いてありますが認定心理士でもあるのでしょうか。

●事務局（岡野看護師）

はい、ご質問ありがとうございます。当院には臨床心理士がいないので神奈川県で臨床心理士の派遣を依頼するような形になっています。無料で4回までは相談ができるのでご案内をしているのですが、相談員の対応で良いという方もいらっしゃるので患者さんからのご希望でお繋ぎしている状況でございます。

○大久保（一）委員

すみません。臨床心理士はよろしいのですが、認定心理士はまだいらっしゃらないということでしょうか。はい、わかりました。

○高山委員長

他に何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

○高山委員長

ではないようですので、議題2については終了させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。異議なしということで、議題2については以上を持ちまして終了といたします。

続いて議題3、救急搬送の状況について事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（高瀬医事課長）

続きまして、議題3救急搬送状況について、ご説明いたします。

説明は医事課長の高瀬が説明いたします。資料については、資料3-1と資料3-2でございます。それでは資料3-1上段の表をご覧ください。こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。

表の右側、年度累計当月までの欄をご覧ください。こちらは、前年度の4月から3月までの合計とその前の年度の4月から3月までの合計とその割合を表したものでございます。

昨年度の茅ヶ崎市消防の全体搬送件数は16,977件で、その前の年度の17,138件から161件減少しております。

しかしながら、当院への搬送件数につきましては4,743件と、前の年度の4,667件から76件増加しており、当院への搬送割合につきましても27.9%と、その前の年の27.2%から0.7ポイント増えています。

なお、昨年度の他院への搬送割合状況につきましては、湘南東部総合病院が20.1%とその前の年度20.6%から0.5ポイントの減少、茅ヶ崎徳洲会病院は12.6%で、前年から0.6ポイントの増加、湘南藤沢徳洲会病院につきましては22.6%で、前年度から2.1ポイントの減少しております。

次に、下の表をご覧ください。こちらは、診療科別に茅ヶ崎市消防に限らず、当院が救急車を受け入れた件数とそこから入院した患者数を表したものでございます。

表の1番下、入院率をご覧ください。昨年度は、12月までは各月とも入院率が35%を超えていたのですが、1月から3月に関しましては35%を下回っており、特に1月につきましては29.5%と、30%を切っている状況となっております。こちらにつきましては、インフルエンザの流行により受け入れ可能な病床が埋まっていたという影響ではないかと分析しております。

なお、年度累計につきましては昨年度37.1%と、前年度の36.5%から0.6ポイント増加しているところでございます。

続きまして、資料3-2をご覧ください。こちらは、昨年度の茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数と割合を行政地区別に分類したものでございます。

資料の下側にある合計の欄をご覧ください。1番右の27.9%が、先ほど資料3-1でお示した茅ヶ崎市消防から市立病院に搬送された割合でございます。

昨年搬送された患者さんの地区別の割合につきましては、松林地区からの搬送が最も多く33.2%、

次に鶴嶺地区からが 27.4%、茅ヶ崎地区からが 24.8%の順となっております。

その前年度と比較いたしますと、上位 3 地区からの搬送は茅ヶ崎地区からは 105 件、鶴嶺地区からは 29 件、松林地区から 32 件増えているというような状況でございますが、小出地区からは 27 件減少、寒川地区からは 63 件の減少となっております。

この小出地区及び寒川地区からの搬送が減少している要因といたしまして、昨年、寒川病院の方で外傷の受け入れにかなり力入れていたというところでございますが、すいません、資料でお示しできず、口頭での報告となり恐縮ではございますが、茅ヶ崎市消防から寒川病院の搬送件数につきましては 2023 年度は 407 件だったのが、昨年、2024 年度には 526 件と約 120 件ほど増加しているところでございますが、当院への搬送も小出地区や寒川地区からの搬送が減少した要因と分析しております。

報告は以上でございます。

○高山委員長

はい、説明ありがとうございました。議題 3 について、委員の皆様からのご意見、ご質問等がございますでしょうか。

○高山委員長

ご質問がないようなので、議題 3 についてはこれで終了とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。では、異議なしということで議題 3 は終了といたします。

続きまして議題 4、その他についてです。事務局より、市立病院の外来予約についての説明をお願いいたします。

●事務局（高橋医事課主査）

はい、事務局より説明させていただきます。市立病院では、現在初診患者さんの診療は、診療所の先生方からのご予約、もしくは紹介された患者さんが診療科に直接来院されるという 2 つの方法で初診にかかっていらっしゃる状況でございます。

さらに、診療所の先生からのご予約の中には、予約方法として直通の電話で予約をいただくかファックスにて予約をいただく、という 2 つのパターンがございます。

そのような状況の中、現在当院の初診患者さんの受診状況ですが、先生方からご予約いただいて受診される患者さんは、直接来院される患者さんの半分程度、年間約 5,000 件、全体で初診患者さんがおおよそ 15,000 件ほど当院に初診でかかれるのですが、そのうち、3 分の 1 が先生方からのご予約で受診されている状況です。残りの方々は直接来院される方々で、おおよそ 3 分の 2 を占めているような状況でございます。

現在の市立病院では、診療所の先生方からのご予約がなく、紹介された診療科に患者さんが直接来院される場合は、11 時まではこちらにお越しいただき、受付をしていただくというようなご案内をしています。中には、9 時前に来ている患者さんいらっしゃいますが、9 時前に来ている患者さんにおかれましても、予約外という形ですので、予約されている再来患者さんの合間で診察となるような状況があります。そのような状況ですと、どうしても診察が遅くなるというようなことが現状の課題でございます。

現状を踏まえ、当院では現在、患者さんの待ち時間を減らす取り組みを検討しておりますので、先

生方からの忌憚のないご意見をいただければと思い、議題として挙げさせていただきました。
説明は以上でございます。

○高山委員長

ただ今事務局より説明のありました市立病院の外来について、委員の皆様からお1人ずつご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

特に、委員の皆様の中には、内科系、外科系、小児科の先生といらっしゃいますので、市立病院に現在紹介する際の状況について、ご意見等ございませんでしょうか。

○大木委員

はい、大木です。

○高山委員長

それでは、大木先生お願いします。

○大木委員

患者さんを紹介するときには、なるべく時間を取るよう患者さんに説得をしています。

それでも、どうしても時間予約ではなくて、自分が行きたいときに紹介状を持って行きたいという方がいらっしゃる場合は、その方には待ちますよ、ということをお伝えし市立病院にクレームを入れないでくださいね、ということをお話ししています。

少し身勝手な患者さんが行ってしまった場合は、やはり私たちも申し訳ないなと思いますので、そこは順番待ちになりますとお話しし、なるべく事前に予約時間を決めてからにしましょうということを徹底してお伝えするようにしています。紹介患者さんは医師会員の先生方からが多いと思いますので、なるべくそういうことを徹底してやった方が病院でのトラブルが少なくなるのではないかなという風に思いました。

以上です。

○高山委員長

どうも、大木先生、ありがとうございました。

その他の先生方、ご意見いかがでしょうか。山口先生、お願いします。

○山口委員

確認なのですが、これは現状をご説明いただいている資料ということで、何か新たな取り組みですか、そういった話ではないわけですね。

●事務局（高橋医事課主査）

そうですね。まずは現状をお伝えし、今後どのようにしていくかということ、この委員会で先生方のご意見をいただきながら模索していきたいと考えております。

○山口委員

ありがとうございます。とりあえず、この枠組みの中で少しプロモーションして、もっと予約数を

増やしていきたいと、そういう趣旨でよろしいでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

そうですね。はい。

○山口委員

少し質問なのですが、小児科の特性上、当日受診、例えば肺炎疑いで当時行っていただきたいと、その様な状況の中で予約というのは相応しい感じなののでしょうか。

あくまで病診連携枠というイメージといたしますか認識なのですか。

●事務局（高橋医事課主査）

そうですね。小児科の先生、小児科におかれましては、やはりそういう事情がございますので、直接来院される方が多くなっております。

ですので、連携予約ということはもしかすると難しいところがあるのではないかと考えており、私共も課題としているところでございます。

○山口委員

例えば、患者さんが朝一の9時に私のクリニックに来て、肺炎疑いがあるから紹介したいとなった場合、11時までに行けるなら紹介状を持って行ってもらった方が早いので直ぐに行ってくださいとお話しし、11時を過ぎてしまう人の場合は病診連携の回線ですね、あれで1本連絡を入れて行っていていただくことになっています。ただ、待てる患者さんであれば特定の先生の病診連携枠を取る、その3パターンなのですが、そういう認識で間違っていないでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

はい、間違っておりません。その様な認識であっております。ありがとうございます。

○高山委員長

他には何かございませんでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

山口先生、すみません。例えばその様な状況の中、何かお困りごとですとか、例えば電話がつながりにくい時があるですとか、患者さんから困りごとを聞いたですとか、その様なことはありますでしょうか。

○山口委員

ないです。ただ、ごめんなさい。少し話がずれますが、患者支援センターで予約を取られているのは、外部の業者さんをお願いしているのでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

はい、現在は委託事業者の前方連携で予約を取っているような状況です。

○山口委員

以前からなのですが、例えばイレギュラーでのご紹介の時に、我々も率直に相談ベースでお電話をすることがあります。

例えば、眼科に紹介したいですとか、外科に紹介したいなど。

その時に、小児科の先生たちの状況は何となくイメージがつくのですが、眼科の状況など他の診療科の状況が少し分かりづらいので、率直に聞いてしまうことがあります。

すみません、こういう患者さんがいるのですが、率直に病診連携で予約を取っていいですか、などそういうイレギュラーな相談をした時に、上手にコミュニケーションが取れないケースがしばしばあり、意図せず直接外来のドクターに電話が繋がって、そこまでやっていただかなくて良いのにな、というケースがあります。

ですので、外部の方が担当されていて、内部の状況をよくご存じない方が担当されているのかなと1度お聞きしたいと思っていました。

通常の紹介であれば、私は今の状況はスムーズにできていて問題ないかと思っています。小児科では。

●事務局（高橋医事課主査）

ご意見、ありがとうございました。

○大木委員

いいでしょうか。私たちの方で予約して多いのは、画像検査などを予約しているにも関わらず、患者さんがキャンセルしてしまうことなのですね。

その様な中、患者さんが全く市立病院に連絡をしないパターンとするパターンがあるのですが、いずれも市立病院から当日か後日、連絡をわざわざクリニックにくれますので、非常に私たちとしては助かっているのですが、非常にお手間を掛けてしまっているなと思っています。

そして、その様な患者さんは大体こちらのクリニックにも来ないので、これは対応しなくても良いのではないかという風に思いながら見っていますが、非常に丁寧なやり方をしているなという風に思っています。

○高山委員長

大木先生、どうもありがとうございました。他に何かご意見等ございませんでしょうか。

そういたしましたら私の方から。産婦人科に関してですが、とりあえず私自身は現時点で大きな問題は感じておりません。

ただ、やはり当然、周産期に関しては週数の問題がありまして、主には逆子が1番急を要するといえますか、それほど時間を空けて欲しくないのが、例えば34週で逆子で一応市立病院にいざという時にお願いしておかなければいけない人たちについて病診連携で予約すると1週間から2週間先になってしまい2週間先だと36週ですので、いつ心配しても分からないような状況になってしまうので、そういう方たちには大木先生がおっしゃっていたように、待ちますよ、でもあななはもう週数がここまで来ているから、ちょっと行って診てもらってきてください、という感じで説明して受診してもらっています。ですので、私が聞いている限りでは大きな問題にはなっていないと思います。産婦人科も今のシステムで特別大きな問題はないと思っています。以上です。

○高山委員長

その他、何か委員の先生からご意見等ございませんでしょうか。

●事務局（益原患者支援センター所長）

高山先生、1つ補足の説明をさせていただきたいのですが、よろしいですか。

○高山委員長

どうぞ。

●事務局（益原患者支援センター所長）

はい、患者支援センターの益原です。昨今、患者さんご自身が医療機関にウェブで予約を取るという方式がだいぶ世の中に増えてきているように思うのですが、そこで、先生方から直接お電話ですとかファックスでご予約をいただいているのですが、それがお手間と言いますか先生方に少しひと手間かけていただいている訳なのですが、その使い勝手というのは先生方としてはいかがですか。特に今の方法で少し回りくどいですとか、お困りごとなど、そういうことは現状ないでしょうか。予約方法の使い勝手を、実際にお使いいただいている先生方に本日お伺いしたいと思っているのですが。

○大木委員

はい。私としては、件数は多いのですが、ウェブは逆にタイミングが難しいかなと思っていて、アナログの方が早いというのと、できれば何日に取れましたよ、というそのファックス返しですね、それが早く来てくれたら良いかなと思っています。

●事務局（益原患者支援センター所長）

先生、現状、ファックスでお返しするのにどれくらいかかる感じですか。

○大木委員

20分くらいかかっている時があります。

●事務局（益原患者支援センター所長）

分かりました。ありがとうございます。

○高山委員長

高山です。私も病院、診療所からウェブというのは中々ハードルが高くて、ファックスの方が楽だと思います。

当院も早いと10分くらいですし、長いと大木先生と同じく20分くらいかかりますが、それで患者さんにお待ちいただいて、特別患者さんからクレームは来ていないので、良いのではないかと思います。

以上です。

○山口委員

すみません、よろしいですか。紹介状を患者さんにもお渡しするのですが、病診連携のところにも紹介欄があって、私は電子カルテで紹介状を打つわけなのですが、病診の方にも書かなくてはいけないというのが、少しストレスになると言いますか、当たり前なのかもしれませんが、内科の先生はどうされているのですか。率直な疑問なのですが。

○大木委員

紹介情報を外来宛と病診連携宛ということですか。

○山口委員

外来宛と言いますか患者さんにお渡しする紹介状とファックスで送る紹介状ですか。

○大木委員

私は1枚作ってファックスを送って、それでそのものを患者さんにその場で渡しています。

○山口委員

紹介状は1枚ですか。

○大木委員

紹介状は1枚作って、ファックスを流して、あとは市立病院に任せてしまえば全部大丈夫ですから。本人には紹介状と予約が取れたら予約票を含めて全部渡しています。

○山口委員

病診連携の複写の紹介をそのまま患者さんにお渡ししているのですか。

○大木委員

と言いますか。自分たちの書式で書いています。自分たちの電子カルテで書いたものをあとは看護師に頼んでいます。市立病院用のものは、そうすればタッチしなくても大丈夫です。

○山口委員

そういう事なのですね。病診連携の方は看護師さんに簡潔に書いてもらっていましたが、分かりました。ありがとうございます。

○高山委員長

他には先生方、ファックスや電話でお困りごとですとか、少し時間がかかっているのではないかなど、ございませんか。

長岡先生と横山先生、いかがですか。

○長岡委員

はい。当院では特に市立病院の方に紹介するということがあまりないので、困っていることはほと

んどありません。ありがとうございます。

○高山委員長

はい、では続いて横山先生、お願いします。

○横山委員

はい。私は時間がない時は紹介状を作っておくので、改めて取りに来てくださいという形で受付に取りに来てもらったり、時間がある時はファックスで 20 分くらいかかっても患者さんに説明して、少し待ってもらう様に対応しています。

それで、紹介状のフォーマットについては当院は電子カルテの中に市立病院の連携の用紙が取り込んであるので、そちらを打って作って提出しているような状況です。

○高山委員長

どうもありがとうございました。

●事務局（益原患者支援センター所長）

高山先生、ありがとうございました。

大変参考になりました。ありがとうございます。

○高山委員長

その他、何かございませんでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

次回の委員会ですが、次回は 10 月 8 日水曜日の 19 時からの予定となっておりますので、10 月 8 日水曜日、よろしくお願いいたします。

○高山委員長

その他に特になければ、本日の議題は全て終了いたしました。

皆様、ご協力どうもありがとうございました。

以上を持ちまして、令和 7 年度第 1 回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了とさせていただきますと思います。

次回の予定をよろしくお願いいたします。

どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。